

ドレスデンにおける世界遺産の登録抹消に至る経過

- 景観問題の背後にあるもの -

正会員 ○ 阿部 成治*

エルベ川 景観評価 ヴァルトシュロッセン橋
住民投票 危機にさらされている世界遺産

1. はじめに

これまでに抹消に至った世界遺産は、保護区の90%を削減するオマーン政府の方針による自然遺産「アラビアオリックスの保護区」を除くと、ヴァルトシュロッセン橋（以下「新橋」と呼ぶ）建設によるエルベ川流域の景観悪化が問題とされた文化遺産「ドレスデンのエルベ川流域¹⁾」に限られる。開発と保全をめぐるこの問題は、2006年に危機遺産リストに載せられて以降、マスコミ報道も行われている。しかし、背景にドレスデン市と州の政治状況や、交通政策や景観検討のあり方が絡んでいることは、知られていない。そこで、関係資料で抹消に至った経過を分析し、重要なポイントを報告したい。

2. 交通計画の変遷と橋の計画確定

ヴァルトシュロッセンの位置に初めて架橋を示したのは1862年のプランで、市の外環状線として位置づけていた。実際に建設が考えられるのは、アルバート橋とロシュビッツ橋が完成した19世紀末以降で、取付部に広場が準備された。1900年と1911年に地元が建設を求めたが、経済的理由で見送られた。第一次大戦後もアウトバーンとの関連で検討が行われ、東ドイツ時代は60年代に6車線、70年代には8車線の計画が作成され、1988年に4車線の立体交差で決定され、斜張橋が計画された。

橋を求める動きは、ドイツ統合後も続く。その一方で、モータリゼーションが進行し、ドレスデンの町が変化することを危惧し、建設に反対する声も根強くあった。

橋を大きく実現へ進めたのが、1996年5月に行われたワークショップである。5つの候補地が検討され、最終的に参加者の多数がヴァルトシュロッセンへの4車線新橋に賛成した。翌6月の市議会にこの案が提案されたが、過半数を得ることはできなかった。統合後のドレスデン市議会では、第一党がCDU（キリスト教民主同盟）、第二党が左翼党²⁾で、SPD（ドイツ社会民主党）、緑の党、FDP（自由民主党）の5党に加え、数名の小政党がいくつかある。5党のうち、4車線で立体交差³⁾の新橋に賛成したのは、CDUとFDPだけであった。その後、妥協案として市長(CDU)が2車線の立体交差で提案し、SPDが「車2車線+公共交通、平面交差」に賛成した結果、1996年8月15日の市議会で建設が可決された。

一方、左翼党を中心に、新橋に反対し、「複数の小規模橋」を求める動きがあった。8月に入るとその住民投票を求める署名活動が開始され⁴⁾、10月に署名が提出された。この住民請求が許容されるかどうかの問題となり、市議会は認めたものの、監督官庁である州⁵⁾が問題を指摘し、投票は実施されないことになった。

その後、新橋の計画を詰める中で、平面交差では1日2万台以上は無理とわかり、1997年5月15日の市議会で、「車2車線+公共交通、立体交差」が認められた。この案で州が進めた計画確定手続きは、騒音が許容限度を超えたため、2000年7月に中断された。見直しを経て、2002年5月2日の市議会で認められた案は、公共交通が消え、車道4車線の計画に変化していた。4車線化は州の期待に応え、州補助金を確実にするためのものである。これを議決できたのは、1999年の市議会選挙でCDUとFDPが議席を増加させ、保守系小政党の協力で過半数を制することが可能になったためである。2003年の縦覧手続きを経て、2004年2月25日に条件つきで新橋の建設計画確定が認められ、年内着工への態勢が整った。

この2004年には、7月の世界遺産委員会で、「ドレスデンのエルベ川流域」の登録も決定している。

3. 市議会の勢力変化と住民投票

着工を控えた2004年6月の市議会選挙では、CDUが議席を大きく減らし、4車線による橋の建設を市議会が止めると予想された。そこで、建設賛成派は7月に橋建設の住民投票を求める団体を発足させ、直ちに署名活動を開始した。SPD、左翼党と緑の党は、9月の市議会で、橋の予算を保育所建設に充てると決定した。

建設賛成派の署名は順調に集まり、投票実施が認められた。2005年2月27日には有権者の50.8%が投票し、その67.9%（有権者の34.4%）が建設に賛成した。有権者の25%の絶対得票率を超えたため、住民投票結果が3年間にわたって市議会議決としての効力を獲得した。こうして、新橋の着工が2006年3月22日に予定された。

ところが、新橋が世界遺産のコアゾーン内であることに注目した建設反対メンバーが、ユネスコとその諮問機関イコモスに状況を訴え、2005年11月に景観が問題化した。資料を検討したイコモスは、2006年1月に、都市の

橋というよりアウトバーンに類似した幹線で、世界遺産の侵害に通じるので、代替案の検討が必要だと指摘した。これを受け、世界遺産センターは、次の委員会まで着工しないことと、視覚効果に関する検討をドレスデン市に求め、紛争の重点が交通面から景観面へ移った。

4. アーヘン大学による視覚効果の検討とトンネル案

橋の設計は国際コンペで競われ、1997年12月に、ハンブルクの建築家フォルクヴィン・マルクを委員長とする委員会で審査された。1位案は鉄骨の傾斜した橋脚が2方向に伸び、「歴史的なドレスデンのアーチ橋を現代的に解釈している」と評価されている。

新橋建設による視覚効果の検討は、2006年2月9日に、ケルンの世界遺産問題を扱った経験のあるアーヘン大学都市計画景観研究所に依頼された。3月15日までの短期間に、計画を取りまく条件が把握され、3次元のデジタル都市モデルが作成されて、それが評価された。検討結果は、次の3点にまとめられ、4月に公表された。

1. 新橋は、次元、尺度、形態的な印象と技術面で、世界遺産区域にある一連の都市橋とは異質である。
2. 新橋は、歴史的かつ現代の都市生活に重要な、ドレスデンとエルベ流域シルエットの視覚的関連を遮る。
3. 新橋は、エルベ弧の連続した景観空間の最も敏感な地点を傷つけ、非可逆的に2つに分断する。

報告書の内容とこの結論には、いくつか疑問の余地がある。とくに、日本の景観研究と違い、もっぱら研究所の担当者が評価を行い、一般市民や学生からの評価を全く求めないまま結論を導いている点は、納得し難い。

ドレスデン市は、3月に、都市発展と自然の調和が評価された世界遺産であることを強調し、トンネルよりも橋が優れているとする冊子を作成した。5月には、ドレスデン工科大学の教授7名（うち1名はコンペ審査員）が、報告書への批判を公表した。これらの内容は、ユネスコに伝えられたと思われる。しかし、2006年7月の世界遺産委員会への提案は、アーヘン大学の報告を基本とし、プロジェクトの見直しを求めた。この内容が一部修正の上で採択され⁶⁾、ドレスデンは「危機にさらされている世界遺産」のリストに載せられた。

事態の急変を受け、建設反対派が過半数を握るドレスデン市議会は、ユネスコの了解がない限り工事を開始しないよう市長に求めた。一方、州は、住民投票結果に拘束されているとして2006年8月に市に工事を命じたが、市はこれに応じなかった。そこで、州は、工事開始が遅れると市に巨額の補償が求められ、住民投票の拘束期間が終了して直接民主制の意義が失われるとして、代執行に踏み切った。これが、法廷で争われることとなる。裁

判所では調停が試みられ、市は、新たな橋のデザインを求めて再びコンペを実施した。しかし、いずれの努力も実を結ばず、州の主張が複数の判決で認められて、2007年11月19日に橋の着工を迎えた。

同時に、州は、聖母教会の再建を指揮したエバーハルト・ブルガーらに設計の修正を依頼し、2008年2月にユネスコとイコモスの代表を招き、幾分スマートになった橋を説明した。しかし、3月にユネスコを訪問した市の代表は、「どのような形であっても橋は認められない」と説明を受けた。ドレスデン市では、すでにトンネル建設の住民投票を求める署名が進められていた。市議会は2008年4月に投票を認めたが、州が違法だとして取り消した。

こうして工事は続けられた。2008年7月の世界遺産委員会はトンネルの検討を強く求め、橋の建設を継続した場合は次回委員会で抹消すると警告した。それでも橋の建設が続けられたため、2009年6月の世界遺産委員会で、ドレスデンの世界遺産タイトルが削除された。

5. あとがき

橋の建設によるモータリゼーション進行を問題として始まった紛争が、世界遺産で注目された後、「橋かトンネルか」と質的に違うものに変化した点は、注意が必要である。当初の世界遺産申請書に触れられていない場所が、視覚的に「最も敏感な地点」に変化した点も、興味深い。今後のためにも、橋の完成後にアーヘン大学による景観評価の適切性が検証されることを期待したい。

注

- 1) Dresdner Elbtal. ユネスコは「ドレスデン・エルベ渓谷」と表記しているが、現地の状況は日本人が「渓谷」からイメージする姿とは異なるため、「流域」とした。
- 2) 左翼党(Die Linke)は、旧東ドイツを独裁支配したドイツ社会主義統一党(SED)の流れを受け継ぐ。左翼党となったのは2005年で、それまではPDS(民社党)と称していた。
- 3) エルベ北岸が丘陵となっているため、立体交差のためには、北岸にトンネルを設置することが必要になる。
- 4) 住民投票制度については、阿部成治(2003)「ドイツにおける自治体レベルの住民投票制度—13州の比較検討—」(日本建築学会大会梗概集F-1, No.7020)を参照すること。
- 5) 具体的にはドレスデン州管区政府を指す。統合後のザクセン州では、CDUが圧倒的な勢力を有している。
- 6) 最大の修正は、「プロジェクトに関する情報がこのように遅い段階で提出されたことを遺憾に」思う部分が削除された点である。新橋は申請書に記載されていたが、イコモスが建設地点を誤って世界遺産委員会に報告した。

使用した主たる参考文献

ドレスデン市報道発表、ドレスデン市公報、ドレスデン州管区政府報道発表、ドレスデン左翼党機関紙、ザクセン新聞、マイン・ドレスデン新聞、ドイツ語版ウィキペディア、ユネスコ世界遺産委員会資料、アーヘン大学視覚検討報告

*福島大学人間発達文化学類教授・工博

* Prof., College of Human Development and Culture, Fukushima Univ., Dr. Eng